

平成30年9月16日現在

機関番号：34310

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12790

研究課題名（和文）伝統的知識・技術を基盤とする産業の特徴と今後の発展可能性 - ミャンマーを事例として

研究課題名（英文）Characteristics of Traditional and Indigenous Industries and their Potential for Sustainable Development in Global Value Chains --- The Case of Myanmar

研究代表者

岡本 由美子 (Okamoto, Yumiko)

同志社大学・政策学部・教授

研究者番号：00273805

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）： 主な研究成果は2つある。1つは、分析枠組みとして、イノベーション・システム論とグローバル・バリュー・チェーン（GVC）研究の融合を試みたことである。ミャンマーの伝統産業の今後の発展の可能性は、如何にGVCに参入し、また、その中で活路を見出すのかにかかっている。従って、本研究の遂行には2つの理論の融合が必要であった。

2つ目は、地方に点在するミャンマーの伝統産業がGVCに入り、成長する手段として、国際ツーリズムが有効であることを見出したことである。‘フォーマル’な輸出に代わり、国際ツーリズムが如何にGVCへの参入とその後の産業の成長に寄与し得るのか、本研究はそのメカニズムを明らかにした。

研究成果の概要（英文）： This study mainly achieved two things. First, it integrated the theory of systems of innovation with the studies of Global Value Chains (GVCs) to construct an analytical framework. The introduction of the latter into this research was important in particular because even traditional and indigenous industries cannot survive without utilizing the force of globalization.

Second, this study found that ‘international tourism’ could play an important role in inviting Myanmar traditional and indigenous industries into GVCs and vitalizing them. In other words, ‘international tourism’ was found to become an alternative to ‘conventional exports’ to sustain and development those industries.

研究分野：社会科学

キーワード：イノベーション・システム論 グローバル・バリュー・チェーン 伝統産業 ミャンマー SDGs

1. 研究開始当初の背景

筆者は、平成 24 年度から平成 25 年度まで、「ミャンマー経済の発展可能性と今後の課題 イノベーション・システム論からの考察」と題した科学研究費助成事業を行った。その成果の一つが、ミャンマーの今後の経済発展には、伝統的知識・技術を基盤とする産業の役割が大きいのではないか、ということを見出したことである。

東南アジアの経済発展はどちらかということ、これまで、対外直接投資と輸出の好循環 (FDI-TRADE NEXUS) によって達成されてきたという見方が強い。また、東南アジアにおける地場産業の役割を指摘してきた調査研究においても、その研究対象となったのは、当初より輸入技術に依存してきた地場産業である。更に、その主な担い手は、財閥等を形成してきた大規模な地場企業家である。

しかるに、ミャンマーには、最大勢力を誇るビルマ族だけでなく、多くの民族が、外来ではない、伝統的な知識や技術を基盤とした産業を維持し、今日まで至っているケースが数多く見られる。また、その産業の主な担い手は、外国の資本家ではなく、地場企業であり、しかも、比較的規模の小さな地場の企業家である。

2011 年から本格的に世界経済への統合が始まったミャンマーにおいて、これら零細・地場企業は維持・発展できるのか、それとも、外国資本または他の産業に圧倒されてしまうのか、それが、本研究を行うようになった背景である。

2. 研究の目的

本研究では、以下の 3 つのことを研究期間内 (平成 27 年度から平成 29 年度) で明らかにすることを目的として行われた。第 1 に、ミャンマーの伝統的知識・技術を基盤とする産業の特徴と今後の発展可能性を明らかにする。第 2 に、その発展プロセスにおける地場企業家の役割を明らかにする。最後に、そのミャンマーの伝統的知識・産業発展の普遍性の有無について吟味を加えることである。

3. 研究の方法

理論的枠組みとしては、イノベーション・システム論、及び、グローバル・バリュー・チェーン (GVC) 研究のこれまでの成果を用いた。

また、平成 27 年度は主に、ビルマ族による伝統的知識・技術を基盤とする産業の代表例として、漆器産業 (伝統工芸品) とコーヒー産業 (農業及びその関連産業) について、

現地を訪問し、アンケート調査・インタビュー調査を行い、調査研究を行った。

平成 28 年度は、主に、シャン州の伝統的知識・技術を基盤とする産業の代表例として手織物産業 (伝統工芸品) 及び、コーヒー産業 (農業及びその関連産業) について、現地を訪問し、アンケート調査・インタビュー調査を行い、調査研究を行った。

平成 29 年度は、ビルマ族主体の漆器産業、及び、シャン州インレー湖畔の手織物産業について、再度調査を行い、平成 27 年度、28 年度の調査では足りなかった部分を補った。

4. 研究成果

研究の成果としては、以下の 4 つが得られた。

(1) イノベーション・システム論とグローバル・バリュー・チェーン (GVC) 研究の融合

理論的枠組みとしては、当初、イノベーション・システム論の応用を考えていた。しかし、同理論は内発的発展については説明力があっても、グローバルな視点が欠けており、急速にグローバル化が押し寄せるミャンマーの伝統的知識・産業の今後の発展の可能性を探るには不十分であることがわかった。

一方、21 世紀に入り、途上国もグローバル化の波を無視できなくなり、開発研究の中でも、グローバルな視点を取り入れた研究が進化した。その一つが、グローバル・バリュー・チェーン (GVC) 研究である。GVC 研究はグローバルな視点を取り入れた途上国研究であることは評価できるものの、途上国の発展メカニズムそのものについてはあまり詳しくない。

よって、本研究は、この 2 つの異なる開発研究の流れを 1 つに融合する必要性を説き、その試みを行った。

(2) ミャンマーの伝統的知識・技術を基盤とする産業の特徴と今後の発展可能性の検証

バガン及びバガン近郊の漆器産業、及び、シャン州インレー湖畔の手織物産業

ミャンマーには、潜在的には非常に多くの伝統的知識・技術を基盤とする産業が存在するが、その代表例として 2 つの上記産業の調査研究を行った。2 つの産業には、民族を超えて、非常に多くの共通点を見出した。

・2011 年以降、成長が著しい。しかも、その

発展は、地域を超えて進行している。

・発展の直接的契機は、2011年以降、ミャンマーが対外的開放政策を行い、外国人観光客を通じて、これら産業が GVCs への参入を果たしたことである。観光客が増えた事で、ただ単に、需要が増えるだけではなく、a)製品の差別化 (product upgrading) b)製造プロセスの高度化 (process upgrading) のみならず、c)製品開発能力やマーケティング能力を磨き自ら新たな顧客を開拓するという、GVC研究が主張するところの Functional upgrading も興ってきている。今後の発展の可能性は極めて大きいと考えられる。

・しかし、これら産業は外発的力によってのみ成長しているわけではないことも明らかとなった。長い年月をかけて、まずは国内の需要を満たすべく、内発的発展も遂げてきたからである。内発的発展の中で、独自の技術やノウハウの蓄積、又は、改良が行われてきた。また、不完全ながらも、それら産業独自のイノベーション・システムも構築されてきた。

・つまり、内発的、外発的両者の力がうまくかみ合った時に、産業の長期の発展可能性が高くなることが明らかとなった。

ミャンマーのコーヒー産業

一方、ミャンマーのコーヒー産業には、現時点では、飛躍的に成長する可能性は見出されなかった。その理由は、長年、独自の R&D を通して有機栽培でコーヒーを生産し加工をする技術・ノウハウは蓄積してきたものの、競争が厳しい世界市場の中においてはまだ製品が十分に差別化されるに至ってはならず、GVCs の中に入り込めていないからである。

内発的発展能力は高くとも、GVCs の中にうまく入り込めなければ、グローバル経済下で飛躍的に発展していく可能性は少ないことが明らかとなった。

(3) 地場企業家の役割

伝統的知識や技術を基盤とする産業は、それぞれの国や地域の独自の価値観、文化や社会の在り方に大きく左右される。したがって、地場企業家の果たす役割は極めて大きいことが当初から予想された。

実際、これら産業に外国資本が入り込んでいる事例は極めて少ないという結果であった。地場企業家が GVCs のガバナンスの頂点に立ち、イノベーションを主導できるかが発展の鍵になることもまた明らかとなった。

(4) ミャンマーの事例の普遍性

筆者は別の科学研究費助成事業で、アフリカ諸国についての研究も行っているが、アフ

リカではミャンマーと異なり、農業は別としても、伝統的知識や技術を基盤とした産業が極めて少ない。その点ではミャンマーの事例は普遍的というよりも特殊的であると言えるのかもしれない。

しかし、アフリカで何故、そのような産業がそもそも形成されて来なかったのか、という理由を考えると、また異なった結論が導出される可能性もある。小規模農業は別として、アフリカは多くの産業が外国資本や外国企業家に牛耳られて来た歴史がある。それ故、地場企業家が育ってはならず、その結果、アフリカでは伝統的知識や技術を基盤とする産業が育ちにくい環境であったと言える可能性もある。もしそうであれば、ミャンマーの事例は非常に普遍性が高くなると言える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

Okamoto, Yumiko (2016), "Opportunities and Challenges Facing the ASEAN in Linking Connectivity and Sustainable Development", *Doshisha Policy and Management Review* Vol.18 No.1, pp.13-25. 査読有。

[学会発表](計 2 件)

Okamoto, Yumiko, "Role of Tourism in Promoting Indigenous Craft Industries and Achieving Sustainable Development Goals (SDGs) --- The Case of Myanmar", (論文が受理されれば、*the 2018 EWIC/EWCA International Conference Seoul*, from August 23 to 25, 2018、で発表の予定である。2018年5月現在、論文概要の投稿中である)。

Okamoto, Yumiko (2016), "Opportunities and Challenges Facing the ASEAN in Linking Connectivity and Sustainable Development", presented at the Plenary 3 *Thinking Regionally at the 2016 EWIC/EWCA International Conference* held at the Manila Hotel, Manila, the Philippines, from January 15 to 17, 2016.

[図書](計 1 件)

岡本由美子 (2016)「第21章 開発のためのイノベーション・システム構築に向けて - グローバル化時代の産業政策の模索」(同志社大学大学院総合政策科学研究科編『総合政策科学の現在』)晃洋書房、262-275ページ。査読無。

[産業財産権]

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
特になし。

6. 研究組織

(1) 研究代表者のみ

岡本 由美子 (Okamoto Yumiko)
同志社大学・政策学部・教授
研究者番号：00273805